

## 感染症医療通訳基礎トレーニングとロールプレイ演習の取り組みについての総括 「HIV 検査と医療へのアクセス向上に資する多言語対応モデルの構築に関する研究」班

研究分担者 宮首 弘子 杏林大学外国語学部教授  
                  沢田 貴志 神奈川県勤労者医療生活協同組合港町診療所所長  
研究代表者 北島 勉 杏林大学総合政策学部教授  
研究協力者 Tran Thi Hue エイズ予防財団リサーチレジデント

### 研究要旨

過去3年間国際情勢が大きく変化し、その影響を受けて、医療通訳へのニーズも変わった。訪日外国人の増加は2019年でピークに達し、医療通訳への需要も高まる一方であった。しかし、2020年の始まりに突如起こった新型コロナウイルスによるパンデミックに見舞われ、外国人の入国が制限され、訪日外国人が激減したが、在留外国人の医療通訳需要は対面での通訳から遠隔通訳に変化している。

同様に、過去3年間の感染症医療通訳研修は、新型コロナウイルスの影響を受け、実施方法、研修内容及び参加者ともに変化があった。実施方法は遠隔医療通訳へのニーズに応じて、パンデミック前の対面からパンデミック後のZoomによるリモート研修に変えた。令和1年度は通常の対面方式の研修、令和2年度・3年度はZoomを利用したリモート研修となった。Zoomによるリモート研修は、主催側と参加者両方にとっても初めての経験で手探り状態からのスタートであったが、対面に劣らない効果が得られることがわかった。研修はそれまではMIC かながわに業務委託し、年一度東京で実施したが、令和1年度から大阪 CHARM にも業務委託し、関東エリアと関西エリア両方で実施することになった。研修回数は対面の年4回からオンラインによる年8回に増やし、参加者も大幅に増えた。以前参加者は首都圏に限られたが、この3年間参加者は北海道から沖縄まで全国に拡大し、地方在住の方に医療通訳研修に参加するチャンスを提供した。

研修内容は、当研究班はHIV単独での医療通訳の確保が困難であることを踏まえて、結核とHIV双方に対応できる通訳者を育成するための研修プログラムを構築した。この3年間の研修テーマは、HIV、結核に加えて、新型コロナウイルス対応も加えて、研修内容を充実させた。系統的に通訳訓練を受けておらず、現場経験も不十分な参加者が多いことを踏まえて、研修は各種通訳トレーニング法を演習の形で紹介し、自宅でも簡単に自主トレーニングできることを体験してもらい、日々の自主学习につながることを目的とした。ロールプレイ演習は、参加者に医療現場を疑似体験し、医療従事者と患者のやりとりを通訳する演習を通訳仲間の前でやってもらい、講師の指導を受けると同時に仲間同士の相互学習も可能にした。さらにロールプレイ演習はZoomの録画機能を利用して、参加者各自の振り返り学習にも効果的であることがわかった。

総括すると、医療通訳のニーズは対面のみならず遠隔に拡大し、それに伴い、通訳研修も遠隔通訳ノウハウの伝授に力点が変わった。リモート研修はどこからでも参加できることから、研修に参加が困難な地方在住の参加者にとっては大きなメリットとなった。リモート通訳および研修のメリットとデメリットは研修を通して明らかになり、メリットを活かせば通訳者にとっては使える道具が増えるだろう。この3年間の研修は医療現場の遠隔通訳の需要の高まりに対応すべく、対面研修のひな型構

築に続き<sup>1)</sup>、リモート研修のひな型も構築できたと考える<sup>2)</sup>。今後 IT リテラシーの向上とともに、研修の方法や内容などまだまだ工夫する余地があり、更なる進化をさせていく必要がある。

## A. 研究目的

日本政府観光局(JNTO)の統計によると<sup>3)</sup>、2019年度訪日外国人は、前年比 2.2%増の 3,188 万 2 千人である。2019 年度までは訪日外国人が増加の一方を辿り、インバウンドの需要に沸いたと言える。同時に、少子高齢化に伴い、労働人口の減少に技能実習生をはじめとする外国人労働者も増える一方であった。

しかし、令和 2 年 1 月から新型コロナウイルスにより、あっという間に世界規模でパンデミックが発生したため、地域や国を跨ぐ人的交流がストップせざるを得ない状況に陥った。それゆえ令和 2 年の訪日外国人の数は、前年比マイナス 87.1% を記録した<sup>4)</sup>。渡航を控えた留学生や技能実習生までも来日できない状態が続いている。

この 3 年間は訪日外国人がピークに達してから一転して、新型コロナウイルスの影響で、医療通訳は対面から電話やタブレット及び Zoom を利用した遠隔通訳の需要が急激に伸びた。遠隔通訳のノウハウを身につけた医療通訳者の養成が急務となった。通訳研修そのものの対面での実施ができなくなり、オンラインによるリモート研修が主流となった。しかし、現役の医療通訳者でも、必ずしも遠隔通訳を経験しておらず、遠隔通訳に必要なツールの操作も把握していない。ただでさえ難しい医療通訳が、経験したことのない遠隔通訳を行うのに戸惑いの声が多く聞かれた。設備の問題から、操作するノウハウの不足、対面と異なる対応の難しさなど、現場の医療通訳者にとっては、遠隔通訳のスキルをいち早く身につけるのが急務となった。

高まる遠隔通訳のニーズに研究班にできることは、リモートによる感染症通訳研修を実施することで、遠隔通訳研修のノウハウを開発し、通訳者にそのノウハウを体験し、理解してもらい、現場に出る自信をつけてあげることだという結

論に至った。

当研究班は平成 28 年から 30 年の 3 年間、HIV と結核双方に対応できる各種言語の感染症医療通訳者の育成を目的とし、通訳実技とロールプレイ通訳研修のモデル化に取り組んで、研修モデルを概成した。その概成されたモデルをベースに、さらに新型コロナウイルスに関する知識や遠隔通訳に必要なスキルの演習を加えて、プログラムを作り直し、医療現場のニーズに対応できるリモート研修モデルの構築を目的とした。令和 2 年は模索しつつ実施し、令和 3 年はさらに改善を加え、リモート研修プログラムのひな型が完成したと考える。

## B. 研究方法

### 1. 研修実施内容と流れ

本研修は令和元年度から MIC かながわと大阪 CHARM に業務委託し、関東エリアと関西エリア両方で実施することになった。

令和元年度の感染症医療通訳研修では、一日目に HIV・結核および保健業務に関する知識の取得を図り、それをベースに二日目の研修ではロールプレイ実演を中心に参加型の研修を行い、後日フィードバック勉強会を実施した。

令和 2 年度、3 年度は Zoom を利用したリモート研修となったが、基本的な内容と日程は従来の方法を踏襲した。本研修の流れは表 1 の通りである。

1 部：通訳基礎技術と遠隔通訳のノウハウに関する演習

2 部：ロールプレイ通訳演習

1 部、2 部とも基本的に Zoom によるリモート一斉講義と Zoom Breakout Rooms によるリモートグループワーク演習とした。指導スタッフは、本研究分担者 2 名（本研修講師）と MIC かながわ、大阪 Charm のベテラン医療通訳者が担当し

た。

表1 通訳基礎トレーニングとロールプレイ研修の内容と流れ（対面とリモートの対照）

	項目	内容	対面式研修(2019)	リモート研修(2020,2021)
1部	医療通訳の心得講義	・クイックレスポンスの練習法と実践1	対面講義	・Zoomによるリモート一斉講義
	医療通訳技術の講義	・シャドーイングの練習法と実践1	対面講義	・Zoomによるリモート一斉講義
		・リプロダクションの練習法と実践1 ・記憶とメモテーク法		
	通訳基礎トレーニング演習	・HIV・結核専門用語のクイックレスポンス実践2	講義室での演習	・Zoom Breakout Roomsによるリモートグループワーク
		・HIV・結核の関連文のシャドーイング実践2		
		・HIV・結核の関連文のリプロダクション実践2 ・メモテーク練習		
	成果アンケート（1部）	・研修成果自己確認	講義室での回答	・Google Formを通じたアンケート配信と回答集計
2部	ロールプレイ演習（1回目）	・講師・指導スタッフによる標準所要時間の設定	講義室での演習	・Zoomによるリモート一斉講義
		・指導スタッフ（医療関係者、患者役）の指定	個別演習室での演習	・Zoom Breakout Roomsによるリモートグループワーク
		・シナリオ分け		
		・グループ分け		
		・各参加者ロールプレイ実演1		
		・参加者相互の実演見学1		
		・実演の録画1	ビデオカメラによる録画	・Zoomによる録画
	ロールプレイ演習（2回目）	・ロールプレイ実演2		・Zoom Breakout Roomsによるリモートグループワーク
		・参加者相互の実演見学2		・Zoomによる録画
		・実演の録画2	ビデオカメラによる録画	
	成果アンケート（2部）	・研修成果自己確認	講義室での回答	・Google Formを通じたアンケート配信と回答集計
	フィードバック勉強会	・参加者各自のロールプレイ録画の確認	講義室での演習	・Zoomによる録画配信
		・研修全体の講評とアドバイス		

## 2. 通訳基礎技術と遠隔通訳のノウハウに関する演習

1部の通訳基礎トレーニング演習は、通訳に必要なスキルを如何に身につけ、なおかつ日々向上していくための方法論を紹介して、演習を通して習得してもらうのが狙いである。

研修の内容は、

- (1) 医師の視点から見る医療通訳者に必要な心得講義
  - (2) 医療通訳者を養成する観点から通訳スキルを向上するための方法論の講義と演習
- の構成である。

(1)では研究班の沢田が医師の立場から、「医療通訳のこれから 遠隔通訳の活用を考える」と題

して、コロナ禍において医療通訳に求めるスキルとは何かを教えるものである。医療現場での遠隔通訳への需要の高まり、遠隔通訳の種類、遠隔通訳の長所と短所、遠隔通訳ならではの注意点について、沢田医師本人および現場の医療通訳者の生の体験を踏まえて紹介しつつ、ケーススタディの形で遠隔通訳の難しさと工夫すべきところ（ノウハウ）を理解してもらった。

(2)では、宮首が通訳者養成の観点から各種通訳基礎トレーニング法の講義と演習である。ボランティア通訳者の多くが通訳訓練を十分に受けていないことを踏まえて、基礎となるシャドーイング、リプロダクション、クイックレスポンス、ノートテークなどのトレーニング方法が如何

に日頃自宅で取り込むかを、HIV や結核の専門用語やフレーズの音声ファイルを用いて練習し、訓練法を体得してもらう。さらに、Zoom のブレイクアウトルーム機能を使って、通訳言語ごとにグループ学習を行い、自宅でも自分一人でも手軽に練習して、通訳のスキルアップができることを体感してもらうものである。

### 3. ロールプレイ通訳演習

2 部のロールプレイ演習は、現場経験のないもしくは不十分な参加者に現場を模擬体験することによって、自身の通訳能力や現場対応力の確認と向上を目的としている。

令和 2 年度、3 年度は遠隔通訳現場の再現を意識して、医療者役と患者役は研修主催側が用意した会議室で対面によるロールプレイを行い、研修参加者は医療通訳者として、Zoom を通じて遠隔通訳を行う形でロールプレイ通訳演習を進めた。

本研修の教材は合わせて 5 つを作成した。令和元年度、2 年度は、HIV と結核の医療通訳が遭遇するであろう 4 つの場面を取り上げ、沢田医師(研究分担者)の監修のもと、NPO「MIC かながわ」がロールプレイのシナリオとして作成した。令和 3 年度は、現場の通訳者の要望に応じて、患者が医師及びソーシャルワーカー両方とのやりとりを取り上げた結核と HIV 医療費に関するシナリオを大阪 CHARM の協力を得て、研究班沢田医師の監修の元新たに作成した。

シナリオ①：医師が患者に HIV 感染を告知する場面

シナリオ②：排菌している結核患者に保健師が初回面接を行う場面

シナリオ③：医師が HIV 患者に治療法を説明する場面

シナリオ④：保健師が退院した結核患者へ服薬支援について説明を行う場面

シナリオ⑤：結核と HIV 医療費について

場面設定：①リンパ節生検後の診察。医師と患者のやりとりの場面。そこで HIV に感染し、薬を飲んでることを告げられた。②：医師の勧めで 2

週間後患者とソーシャルワーカーとの面談、結核と HIV の医療費について相談する場面。

### 4. 評価方法

研修成果の確認のため、研修参加者に対し、研修に関するアンケート調査(別紙 1、2)を実施した。アンケートは半構造的質問形式で、有効性の程度の評価と自由所感を収集した。本年度は Forms を利用したオンラインによるアンケート配信と集計を行った。研修当日ではなく、後日のアンケート集計となったため、参加者の全数の集計とはならなかった。

ロールプレイ演習では、通訳に求められる基本的能力を正確性と迅速性の両軸から捉える評価法を採用している。リモートでの実施を考慮に入れ、昨年度見出した簡略な評価方法を今年度も用いた。

具体的に言うと、通訳の正確性を測るためには、評価ポイントを数値化し、できなかったところを減点する、という簡便な減点方式を採用した。各言語、各グループの指導スタッフはこの統一した評価シートを用いて、参加者の通訳パフォーマンスを採点しながら、具体的に問題点を指摘し、改善の方法をアドバイスする。

通訳の迅速性を測るためには、タイムキーパーを設けて、1 回目と 2 回目それぞれ通訳の所要時間を測り、秒数まで測定して記録することにした。通訳の所要時間を測ることによって、1 回目と 2 回目どれほど時間短縮できたかをその場で本人にフィードバックし、数値化されたプロセスを通じて、参加者に目に見える研修成果を実感してもらうのが狙いである。

(倫理面への配慮)

すべてのアンケート調査は、当研究班代表者が所属する杏林大学大学院国際協力研究科の研究倫理委員会から承認を得ている。また、ロールプレイの録画への参加は任意であることを事前に説明し、調査参加の同意を得て実施した。

## C. 研究成果

### 1. 演習参加者と参加言語

通訳基礎技術演習では、リモートでの研修となった令和2年度(2020年度)から参加者および参加言語が増えて、2年間で合計207人、参加言語は13言語に上った。英語、中国語が合わせて6割超であり、以下ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語の順である。(表2参照)

表2 通訳基礎技術演習参加者と参加言語

参加言語	MICかながわ		大阪CHARM		合計 (人)	割合 (%)
	2020	2021	2020	2021		
英語	33	17	12	11	73	35.3
中国語	26	14	3	9	52	25.1
ベトナム語	8	16	2	2	28	13.5
ネパール語	3	1	4	1	9	4.3
スペイン語	6	5	1	3	15	7.2
ポルトガル語	5	7			12	5.8
タイ語	4	3		1	8	3.9
フィリピン語		0	3	1	4	1.9
ミャンマー語		0	2		2	1.0
ロシア語	2	0			2	1.0
韓国語	2	3		1	6	2.9
フランス語	1	4		1	6	2.9
モンゴル語	1	0			1	0.5

ロールプレイ演習では、見学者も含めて3年間で112名、9言語の参加者であった。中国語の参加者が約5割を占め、ベトナム語、英語の順である。(表3参照)

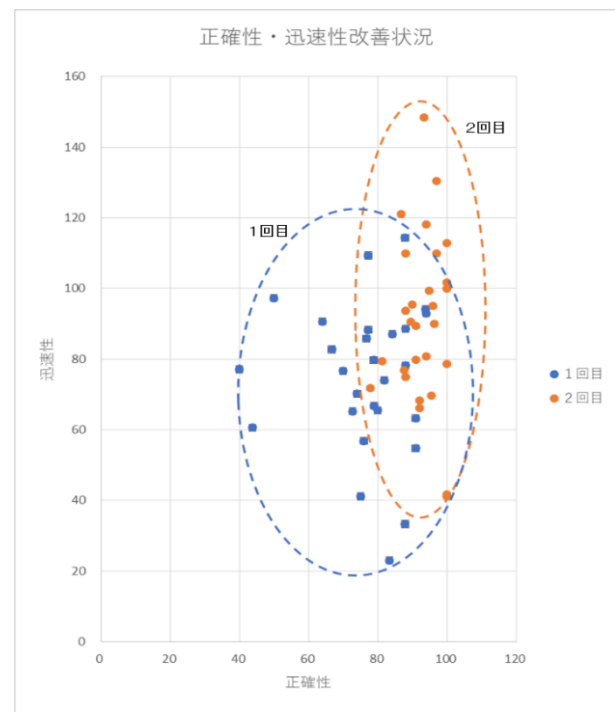
表3 ロールプレイ演習参加者と参加言語

参加言語	MICかながわ			大阪CHARM			合計 (人)	割合 (%)
	2019	2020	2021	2019	2020	2021		
英語			0	9		6	15	13.4
中国語	14	18	11	3	2	7	55	49.1
ベトナム語	2	8	7	2		2	21	18.8
ネパール語		2			4		6	5.4
スペイン語						3	3	2.7
ポルトガル語			6				6	5.4
フィリピン語	2				2	1	5	4.5
韓国語						1	1	0.9
フランス語						1	1	0.9

### 2. ロールプレイ演習の評価

ロールプレイ演習の評価は、通訳の正確性と迅速性にポイント置き、数値化することで参加者にとっても目に見える形で進めた。図1は1年目(2019年度)対面で実施したロールプレイ演習であった。参加者の2回にわたる通訳の正確性と迅速性を測定した。比較的参加者の多い中国語参加者を例にその評点(正確性)と所要時間(迅速性)を散布図にプロットすると2回の演習による効果を確認することができる(図1参照)。このように、ロールプレイ実演の通訳能力改善効果を可視化して認識することができた1)。

図1 ロールプレイ演習中国語参加者の評点と所要時間の散布図



### 3. 参加者による通訳基礎技術演習の評価

通訳基礎技術演習の効果を確認するために、研修参加者から演習後にアンケートを取った。(表4)

アンケートの結果から、通訳者にとって必須とされている基礎トレーニング法は「知らない」、或いは「聞いたことがある」の参加者が一定数あることがわかった。シャドーイングは「知らない」が12.2%、「聞いたことがある」が22.2%、クイックレスポンスは「知らない」が19.4%、「聞いたことがある」が26.7%、リプロダクションは「知

らない」が18.9%、「聞いたことがある」が29.4%、ノートテキングは「知らない」が9.4%、「聞いたことがある」が27.2%である。

総じていえば、通訳の基礎トレーニング知識を普及するにはまだ研修を増やす必要がある。一方では、研修を参加して、各基礎トレーニングの有効性について参加者は、「強くそう思う」が50%以上、「そう思う」と合わせると80%以上90%に近い参加者が有効であるとポジティブに評価した。

表4 通訳基礎トレーニング演習の評価

属性	分類	MICかながわ		大阪CHARM		計	
		2020	2021	2020	2021	人数	割合%
		65	65	22	28	180	100.0
シャドーイングを知っていたか	a.知らない	9	4	4	5	22	12.2
	b.聞いたことがある	19	10	5	6	40	22.2
	c.多少練習したことある	29	43	8	9	89	49.4
	d.よく練習している	7	8	3	8	26	14.4
	e.その他	1	0	2	0	3	1.7
シャドーイングの有効性	a.強くそう思う	43	27	9	13	92	51.1
	b.そう思う	15	30	10	13	68	37.8
	c.どちらかといえばそう思う	7	7	3	2	19	10.6
	d.どちらかといえばそう思わない	0	1	0	0	1	0.6
	e.まったく思わない	0	0	0	0	0	0.0
クイックレスポンスを知っていたか	a.知らない	9	12	4	10	35	19.4
	b.聞いたことがある	19	19	5	5	48	26.7
	c.多少練習したことある	29	27	8	5	69	38.3
	d.よく練習している	7	7	3	8	25	13.9
	e.その他	1	0	2	0	3	1.7
クイックレスポンスの有効性	a.強くそう思う	44	30	13	14	101	56.1
	b.そう思う	16	26	6	12	60	33.3
	c.どちらかといえばそう思う	5	8	3	2	18	10.0
	d.どちらかといえばそう思わない	0	1	0	0	1	0.6
	e.まったく思わない	0	0	0	0	0	0.0
リプロダクションを知っていたか	a.知らない	9	12	4	9	34	18.9
	b.聞いたことがある	19	24	5	5	53	29.4
	c.多少練習したことある	29	26	8	9	72	40.0
	d.よく練習している	7	3	3	5	18	10.0
	e.その他	1	0	2	0	3	1.7
リプロダクションの有効性	a.強くそう思う	44	28	12	14	98	54.4
	b.そう思う	15	28	7	12	62	34.4
	c.どちらかといえばそう思う	5	7	3	2	17	9.4
	d.どちらかといえばそう思わない	1	1	0	0	2	1.1
	e.まったく思わない	0	1	0	0	1	0.6
ノートテキングを知っていたか	a.知らない	9	2	4	2	17	9.4
	b.聞いたことがある	19	19	5	6	49	27.2
	c.多少練習したことある	29	34	8	9	80	44.4
	d.よく練習している	7	10	3	11	31	17.2
	e.その他	1	0	2	0	3	1.7
ノートテキングの有効性	a.強くそう思う	48	40	15	14	117	65.0
	b.そう思う	12	20	4	14	50	27.8
	c.どちらかといえばそう思う	5	4	3	0	12	6.7
	d.どちらかといえばそう思わない	0	1	0	0	1	0.6
	e.まったく思わない	0	0	0	0	0	0.0
リモート研修の効果 (対面研修に比して)	a.とても効果的	15	16	4	10	45	25.0
	b.効果的	27	21	8	11	67	37.2
	c.変わらない	16	18	9	6	49	27.2
	d.困難	6	9	1	0	16	8.9
	e.とても困難	1	1	0	1	3	1.7

#### 4. 参加者によるロールプレイ演習の評価

ロールプレイ演習の参加者からのアンケート結果は表5の通りである。

「研修の流れ」については96.9%の参加者から「とても良い」或いは「良い」と評価した。「専門用語の理解の深まり」は82.8%、「患者対応能力の向上」は79.6%、「医療者対応能力の向上」は78.1%、「メモ取り要領の向上」は59.3%、「他参加者の実演を参考」は93.8%である。

総じてみれば、研修の流れには高評価で、専門

用語への理解や医療者・患者への対応力の向上には一定の効果があると認められる。しかし、メモ取りの要領の向上は半数程度に留まり、まだ工夫する余地があると考ええる。

また、「リモート通訳のロールプレイ（対面と比較して）」は「とても効果的」と「効果的」を合わせて44%の参加者は評価し、「対面と変わらない」は30.8%が評価した一方で、「困難」だと感じた参加者が25.3%いることも分かった。更なる工夫が必要だと感じた。

表5 ロールプレイ演習の評価

属性	分類	MICかながわ			大阪CHARM			計	
		2019	2020	2021	2019	2020	2021	人数	割合%
		19	21	24	18	26	20	128	100
研修の流れ	a.とても良い	17	13	20	13	16	12	91	71.1
	b.良い	1	8	4	5	8	7	33	25.8
	c.普通	1	0	0	0	2	1	4	3.1
	d.悪い	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	e.とても悪い	0	0	0	0	0	0	0	0.0
専門用語の理解の深まり (1回目に対する2回目)	a.強く思う	4	6	10	4	5	7	36	28.1
	b.そう思う	10	11	12	9	17	11	70	54.7
	c.どちらかといえばそう思う	3	3	2	5	3	2	18	14.1
	d.どちらかといえばそう思わない	2	1	0	0	1	0	4	3.1
	e.まったく思わない	0	0	0	0	0	0	0	0.0
患者対応能力の向上 (1回目に対する2回目)	a.強く思う	7	3	4	13	5	3	35	27.3
	b.そう思う	9	12	15	4	13	14	67	52.3
	c.どちらかといえばそう思う	0	6	5	1	3	2	17	13.3
	d.どちらかといえばそう思わない	0	0	0	0	5	1	6	4.7
	e.まったく思わない	0	0	0	0	0	0	0	0.0
医療者対応能力の向上 (1回目に対する2回目)	a.強く思う	9	3	4	9	4	3	32	25.0
	b.そう思う	7	13	16	7	12	13	68	53.1
	c.どちらかといえばそう思う	0	5	4	2	6	3	20	15.6
	d.どちらかといえばそう思わない	0	0	0	0	4	1	5	3.9
	e.まったく思わない	0	0	0	0	0	0	0	0.0
メモ取り要領の向上 (1回目に対する2回目)	a.強く思う	6	1	5	2	3	2	19	14.8
	b.そう思う	7	11	11	9	9	10	57	44.5
	c.どちらかといえばそう思う	3	7	8	5	7	7	37	28.9
	d.どちらかといえばそう思わない	0	1	0	0	6	1	8	6.3
	e.まったく思わない	0	1	0	0	1	0	2	1.6
他参加者の実演を参考	a.強く思う	14	7	14	13	14	8	70	54.7
	b.そう思う	2	13	10	5	10	10	50	39.1
	c.どちらかといえばそう思う	0	1	0	0	2	2	5	3.9
	d.どちらかといえばそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	e.まったく思わない	0	0	0	0	0	0	0	0.0
リモート通訳のロールプレイ (対面通訳に比して)	a.とても効果的		1	2		2	3	8	8.8
	b.効果的		6	8		9	9	32	35.2
	c.変わらない		7	9		7	5	28	30.8
	d.困難		7	5		8	3	23	25.3
	e.とても困難		0	0		0	0	0	0.0



## 5. 参加者によるリモート研修の評価

参加者アンケートから、リモート研修のメリットは移動等時間ロスがない、リラックスして集中しやすい、遠隔でも参加可能、感染リスクない、音声聞き取り容易、録画機能が有効などが挙げられた。

一方、デメリットとして、通信環境不安定、通信機器使い慣れない、表情などの情報入手困難、(通訳)区切りのタイミング困難、臨場感、緊張感が低い、ニュアンス伝達困難などが挙げられた。(表6参照)

表6 リモート研修の評価

	項目	MICかながわ			大阪CHARM			計	
		2019	2020	2021	2019	2020	2021	人数	割合%
			21	24		26	20	91	
リモート研修のメリット	移動等時間ロスがない		4	20		6	17	47	15.6
	リラックスして集中しやすい		4	5		1	8	18	3.9
	遠隔でも参加可能		6	22		8	18	54	17.2
	感染リスクない		2	20		1	13	36	15.6
	音声聞き取り容易		1	8			5	14	6.3
	録画機能が有効		1	11			6	18	8.6
リモート研修のデメリット	通信環境不安定			12		8	7	27	9.4
	通信機器使い慣れない			2		2	4	8	1.6
	表情等の情報入手困難		5	6		8	7	26	4.7
	区切りのタイミング困難		2	14		1	9	26	10.9
	臨場感・緊張感低い		5	5		1	3	14	3.9
	ニュアンス伝達困難			1		2	3	6	0.8

## D. 考察

令和2年度(2020年度)から実施されているリモートによる研修について、リモート通訳研修の有効性(メリットとデメリット)をまとめてみる。

### ◎主催側にとってのメリット

- ・対面で実施してきた研修はリモートでもできた。
- ・研修のための会場の確保は一部必要がなくなり、研修の回数が増え、研修内容もさらに充実した。
- ・アンケートは実施と回収をしやすい。
- ・Zoom機能を利用したロールプレイ演習の録画はしやすく、参加者にも共有しやすい。
- ・地域限定の実施から全国に広げたことにより、参加者が増えた。研修実施困難な地域の参加者にチャンスを提供した。
- ・業務委託したNPO法人のスタッフはリモート研修主催するスキルの蓄積になった

### ◎参加者側にとってのメリット

- ・移動せず、どこでも研修に参加できる
- ・全国から多言語の参加者と交流できる
- ・自宅でリラックスして参加できる

- ・Zoomのロールプレイ録画は、研修後の振り返りに効果的である。
- ・リモート通訳のノウハウは体験できる。

### ◎デメリット

- ・受信環境によっては、研修の質が下がる
- ・参加者の交流が難しい時がある
- ・グループワークはスムーズでないときがある
- ・通訳の区切りのタイミング困難
- ・(患者や医療者の)表情等の情報入手困難
- ・ニュアンス伝達が困難

以上のように、リモート研修のメリットとデメリットは明らかになった。言えることは、デメリットは、遠隔通訳にとって受け入れざるを得ないリスクであり、克服すべき問題点でもあるので、研修を通して経験してもらい、リスク回避の工夫をしていくことが大切だと考える。

## E. 結論

令和1年度(2019年度)は過去三年間の研修のひな型を受け継ぎ、さらに研修の有効性と評価

の効率化に改善をくわえて、本研修のプログラムのモデル化がある程度実現した。

令和 2 年度（2020 年度）は遠隔通訳のノウハウの伝播が急務となったため、リモート通訳の研修の可能性を探り、対面通訳研修でできたことをリモートでも可能であることを実証した。

令和 3 年度（2021 年度）は令和 2 年度に培った経験を活かして、リモート通訳研修のひな型を作った。

この 3 年間に対面研修とリモート研修を両方ともに実施し、それぞれのメリットとデメリットを把握することができた。同時に、参加者の多くが通訳の基礎トレーニングを系統的に積んでおらず、通訳研修を定期的に受ける必要性があることも痛感した。今後とも通訳研修を定期的に受けられるプログラムを開発し、研修の場を提供したいと考える。また、研究班がこれまで蓄積してきたこれらの経験を活かして、今後通訳研修をさらなる進化をさせていきたいと考える。

## 参考文献

1) 北島勉、他(2020)『外国人に対する HIV 検査と医療サービスへのアクセス向上に関する研究』令和 1 年度総括・分担研究報告書（厚生労働省・科学研究費補助金エイズ対策研究事業）

2) 北島勉、他(2022)『外国人に対する HIV 検査と医療サービスへのアクセス向上に関する研究』令和 3 年度総括・分担研究報告書（厚生労働省・科学研究費補助金エイズ対策研究事業）

3) 日本政府観光局(JNTO) 報道発表資料  
[https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/data\\_info\\_listing/pdf/200117\\_monthly.pdf](https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/data_info_listing/pdf/200117_monthly.pdf)

4) 日本政府観光局(JNTO) 報道発表資料  
[https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/data\\_info\\_listing/pdf/210120\\_monthly.pdf](https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/data_info_listing/pdf/210120_monthly.pdf)

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 研究分担者

(口頭発表)

1)

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし





5. 今までに、「リプロダクション」の通訳技法は知っていましたか？

- a.  知らない      b.  聞いたことがある      c.  多少練習したことある  
d.  よく練習している      e.  その他

6. 「リプロダクション」の訓練は通訳のスキルアップに有効だと感じましたか？

- a.  強くそう思う      b.  そう思う      c.  どちらかといえばそう思う  
d.  どちらかといえばそう思わない      e.  まったく思わない

7. 今までに、「ノートテーキング」の通訳技法は知っていましたか？

- a.  知らない      b.  聞いたことがある      c.  多少練習したことある  
d.  よく練習している      e.  その他

8. 「ノートテーキング」の訓練は通訳のスキルアップに有効だと感じましたか？

- a.  強くそう思う      b.  そう思う      c.  どちらかといえばそう思う  
d.  どちらかといえばそう思わない      e.  まったく思わない

9. 今回のリモートによる研修は、通常の対面による研修に比べて効果的でしょうか。

- a.  とても効果的      b.  効果的      c.  変わらない  
d.  困難      e.  とても困難

10. 今回のリモートによる研修は、通常の対面による研修に比べてどのようなメリットがあるでしょうか。（複数選択可）

- a.  移動等時間ロスがない      b.  リラックスして集中しやすい  
c.  遠隔でも参加可能      d.  感染リスクない  
e.  グループ分けが容易      f.  チャット機能は便利  
g. その他 ( )

11. 今回のリモートによる研修は、通常の対面による研修に比べてどのようなデメリットがあるでしょうか。（複数選択可）

- a.  通信環境不安定      b.  通信機器使い慣れない  
c.  意見交換困難      d.  参加者間の交流困難  
e.  集中力持続困難      f.  質問困難  
g. その他 ( )

12. 今後の研修で取り上げてほしいテーマがありましたら、教えてください。

コメント ( )

ご協力有難うございました。

このアンケートから判ったことを学会などで発表する場合があります。

発表にご自分の回答が含まれることに同意されない場合は以下の「同意しない」の欄にチェックをし









ご協力有難うございました。

このアンケートから判ったことを学会などで発表する場合があります。

発表にご自分の回答が含まれることに同意されない場合は、以下の「同意しない」の欄にチェックをして下さい。チェックがない場合は同意したものとみなさせていただきます。

同意する。

同意しない。